



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム） （アメリカ、トモダチ・カケハシ・イノウエ 第2陣）の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国より大学生および引率者の計25名が、2017年3月24日～31日の7泊8日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。地方自治体訪問、省庁講義、歴史的建造物視察、学校交流等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を生かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

アメリカ 25名（ハワイ大学マノア校）

【訪問地】

東京都、神奈川県、福岡県

2. 日程

- 3月24日（金） 成田国際空港より入国
【講義】外務省北米局「日本の外交政策」
【オリエンテーション】
- 3月25日（土） 【歴史・文化】海外移住資料館
【歴史的建造物】川崎市立日本民家園
【商業施設訪問】クィーンズスクエア
- 3月26日（日） 都内から福岡へ移動
【歴史的建造物】太宰府天満宮
【文化体験】梅ヶ枝餅焼き体験
- 3月27日（月） 【表敬訪問】福岡市役所
【自然・文化】大濠公園
【地域産業】トヨタ自動車株式会社九州 工場見学
【地域産業】株式会社安川電機 みらい館
- 3月28日（火） 【文化体験】大濠公園能楽堂 狂言体験
【学校交流】九州大学
- 3月29日（水） 【文化体験】福岡市文化交流公園 松風園 茶道体験
【商業施設訪問】イオンモール福岡
【ワークショップ】
- 3月30日（木） 福岡から東京へ移動
【最先端技術】千葉工業大学スカイツリーキャンパス
【歴史・伝統文化】江戸東京博物館
【報告会】
【交流会】米日カウンシル（USJC）TOMODACHI アラムナイ
- 3月31日（金） 【都内視察】東京都庁
【都内視察】お台場
【歴史・文化】国立歴史民俗博物館
成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真 東京都



3/24 【講義】外務省北米局（東京都）



3/25 【歴史・文化】海外移住資料館（東京都）



3/25 【歴史的建造物】川崎市立日本民家園（神奈川県）



3/30 【交流会】米日カウンスル（USJC）TOMODACHI アラムナイ（東京都）



3/30 【報告会】（東京都）



3/31 【歴史・文化】国立歴史民俗博物館（佐倉市）

地方プログラム 福岡県



3/26 【文化体験】梅ヶ枝餅焼き体験（太宰府市）



3/27 【地域産業】安川電気みらい館（北九州市）

	
3/27 【自然・文化】大濠公園(福岡市)	3/28 【文化体験】狂言体験(福岡市)
	
3/28 【学校交流】九州大学(福岡市)	3/29 【ワークショップ】(福岡市)

4. 参加者の感想

◆ アメリカ 大学生

外務省での外交政策講義では、経済や日本人が保ち続けている文化など、日本の様々な側面について知ることができとても興味深かったです。リーダーとなる女性を増やそうとする政策の一方で、同時に出生率を上げる政策があることを知り、驚きました。これらは相反する目標のように思えましたが、2つの目標は達成可能であると学びました。

ハワイ大学マノア校と比較して九州大学の校舎がそれほど綺麗でないように見えたが、それは日本の効率重視の姿勢によるものなのか、あるいは資金不足の結果なのか興味がありました。

トヨタ工場と安川電機の製造工程は素晴らしいと思いました。工場の効率性の高さ、トヨタの「ジャストインタイム」生産システムを見学することができ、感激しました。また、見学した工場全体の設備の質の良さにも驚かされました。日本では地下鉄に数分乗れば、ハワイの3-5倍の距離を移動することができました。さらに、町がきれいなことに驚きました。不思議なことにゴミ箱が少ないのに道に捨てられたゴミはほとんどありませんでした。また、夜に多くの人が通りを歩いている様子を見て、楽しく感じました。ハワイでは通常どこへ行くにも車で移動するためです。

◆ アメリカ 大学生

講義は大変興味ある内容で印象的でした。各講義で話された情報は素晴らしいものでした。特に外務省の講義では、日本の外交政策に関して普段は聞くことのできない内容について知ることができ、とても面白かったです。日本側から見た第二次世界大戦と米国側から見たそれとの比較が興味深かったです。

九州大学を訪問し、学生達と会うことができたことをとても嬉しく感じています。キャンパスの設備や先端技術の学部にも驚きました。米国の大学、特にハワイ大学マノア校は大学

の発展のあり方や教育における投資について、九州大学から得られるものが多いと思います。

日本の企業の視察は本当に驚きの連続でした。日本人の労働者（トヨタ自動車九州）の勤労意欲と効率性は素晴らしいと感じました。安川電機では驚くべき技術進歩を垣間見ることができました。それらの技術は広く影響を与えて、医療介護、生活水準、労働者の働き方を改善していくと思います。

また、日系人と海外移住についての講義について興味を持ちました。来日前には、ブラジルなどの国での日系人の存在の大きさについて知りませんでした。本来軽蔑的な意味の「ジャップ」、「合いの子」という言葉が、日系人の子孫達の勤勉で信頼できる性格を称賛するものになったという話を聞き驚きました。この講義で、日本と他の国々との国際的な関係をより深く理解することができました。私は、このプログラムでお会いしたコーディネーター、関係者の人たちなど、日本人は皆が互いに敬意を払っていること、おもてなしの心を持っていることを知り感動しました。日米の関係を強固にすることができる、このような特色あるプログラムを準備してくださった方々に感謝申し上げます。

5. 受入れ側の感想

◆ 学校交流 大学生

ハワイ大学の学生が実際に福岡に来てくれるのを楽しみにしていました。ハワイ大学の学生は、明るくて友好的で、私が聞き取れなくて分からないことがあれば、ゆっくり言ってくれたり分かるように言い換えて説明したりしてくれました。日本とハワイのお互いの大学生活や家族のことを話して、とても楽しい時間を過ごせました。2人のうち1人のハワイ学生は日系人で、家の中ではお母さんが日本語を話し、それに対して英語で返答すると聞いてとても興味深かったです。改めて、日本とハワイの繋がりを感しました。その後ハワイ大学の学生のプレゼンがあり、彼らのフラダンスはとても印象に残りました。外国人に福岡を案内するのは初めてでしたので、どこに行けば喜んでくれるか、ここはぜひ紹介したいなど、たくさん考える機会になり、20年間住んでいる福岡のことをもっと知る良い機会になりました。彼らと一緒に天神や博多を歩く中で、日本の建物や街並み、文化などに関する様々な質問を受け、私たちが日本に暮らしていて当たり前と感じているものに対してそういう視点もあるのかと驚かされることが多々あり、とても刺激を受けました。他国の人と交流する際に、相手の国の文化や歴史を学ぶことはとても大切なことですが、まず自分の国のことを説明できるくらい知っておくのは重要だなと感じました。同世代の外国人の方と、じっくりと一緒に過ごせたのはとても良い思い出になりました。私たちがハワイを訪問した時も学生ともっと一緒に過ごす時間がほしかったなと思いました。

◆ 学校交流 大学生

ハワイの学生と過ごした1日は大変有意義で勉強になりました。初対面の外国の学生と長時間活動できる機会はなかなかないため、受け入れの前から、どのように接し、どういう話をすればよいのか悩んでいました。しかし、いざ対面し共に昼食を食べると、徐々に打ち解け、自然と会話をすることができました。私の英語でのコミュニケーション力が十分ではなかったため、自分の思っていることを全てスムーズに伝えることは困難でしたが、積極的にコミュニケーションをとろうという姿勢を持っていれば心が通じ合えるということ学びました。海外の学生に福岡の街を案内するのは二回目の経験でしたが、自分が日々何気なく歩いている福岡の街でも海外の学生からすれば不思議なことだらけであり、自分にとっての当たり前が海外の学生にとっては当たり前ではないということに気が付きました。また、福岡の街を案内し様々な場所について説明することで、自分自身も福岡の魅力について再認識することができました。今後もこのようなプログラムに積極的に参

加し、少しでも日本と海外の「架け橋」となれるように努めていきたいです。

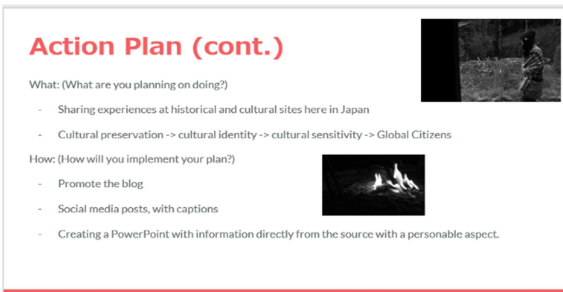
◆ 学校交流 大学生

カケハシ・プロジェクトの派遣でハワイに行った際は、自分の中で納得できるほどハワイ大学の学生に積極的に話しかけることができませんでしたので、今回の受け入れでは、英語力に自信はないけども自分から積極的に交流していこうと意気込んで臨みました。実際に自分から話してみると、拙い英語でも会話はきちんと成立するし、またこちらが全く聞き取れず何でも聞き直してもハワイ大学の学生は嫌な顔一つせず話してくれました。ハワイ大学の学生は非常に優しく、また今回の交流で私は英語でコミュニケーションが取れると自信を持つこともできました。今回の経験を活かし、これから積極的にこのような外国人との交流活動にも参加していきたいとも感じることができました。本当にハワイの大学生には感謝しており、今後もこの体験を活かしていきたいと思います。

6. 参加者の対外発信

	Kakehashi PUBLISHED ON April 3, 2017 by Chelsea Tanaka Leave a comment Through the Kakehashi TOMODACHI Inouye Scholars Program, I had the opportunity to learn about the history and culture of Japan, and the significance of the role that the scholars and I play in building a kakehashi between the US and Japan. 
「トモダチ・カケハシ・イノウエプログラムは私に日本のアイデンティティと日本とのつながりを気づかせてくれただけでなく、多くの人たちが調和を求めてお互いを学ぼうとしているという希望を与えてくれました。	トモダチ・カケハシ・イノウエプログラムを通して、日本の歴史や文化を学ぶ機会を得たと同時に、私たち参加メンバーがアメリカと日本の架け橋になるという重要な役割を持っていることを学ぶ機会となりました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
今回訪問した歴史的、文化的施設で得た経験についてソーシャルメディアを活用して共有する。特に、ハワイにおける日本文化の保存・継承から、日系人アイデンティティへの認識という点に焦点を当てながら、文化の感受性やグローバル市民についての考えに繋げる。	今回繋がった米日カウンシルのトモダチプログラム奨学生とハワイ大学マノア校の学生とでハワイの日米コミュニティを作り、2017年秋を目途に、ハワイの日本文化センターでツアーガイドやイベント企画運営を行う。